

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月29日

千葉市長 殿



提出者

住所 千葉市花見川区柏井町430

氏名 千葉県企業局 柏井浄水場

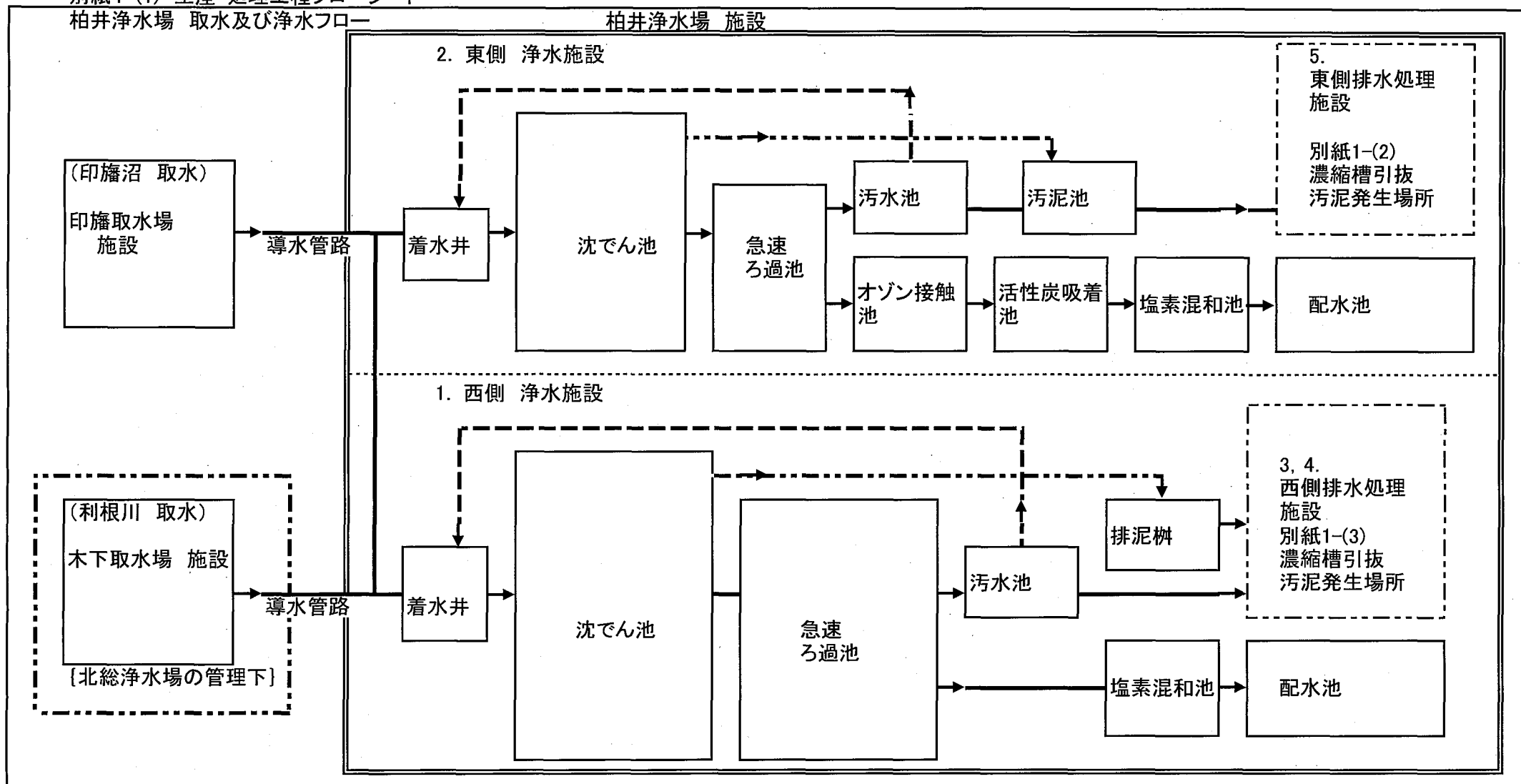
場長 長谷川 勝久

電話番号 043-259-5531

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

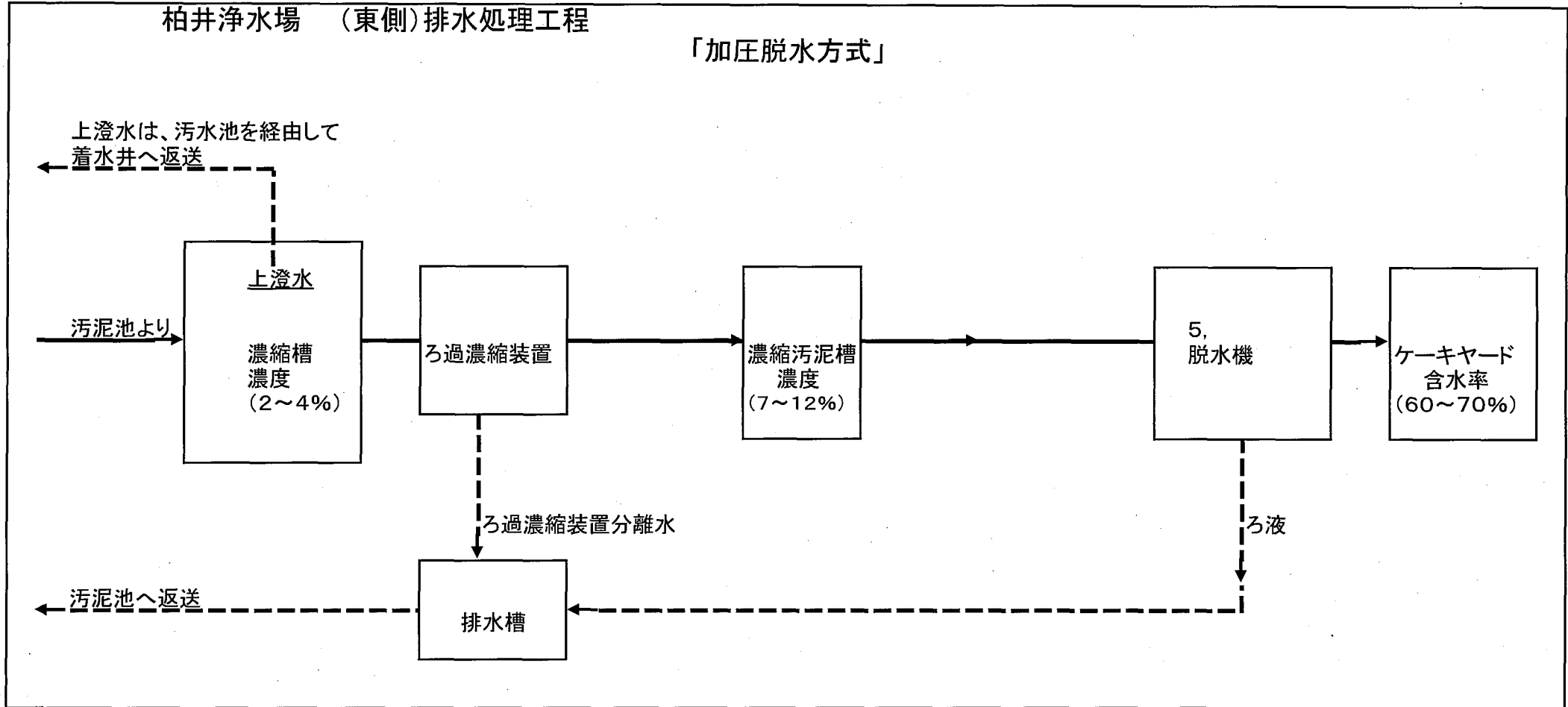
事業場の名称	千葉県企業局 柏井浄水場
事業場の所在地	千葉市花見川区柏井町430
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	大分類 電気・ガス・熱供給 中分類 水道業 小分類 上水道業
② 事業の規模	上水 施設能力 530,000 m ³ /日 (東側浄水施設 170,000 m ³ /日・西側浄水施設 360,000 m ³ /日)
② 従業員数	74人 (委託業者等を含まない)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1-(1)～1-(3)のとおり

製造業等
別紙1-(1) 生産・処理工程フローシート
柏井浄水場 取水及び浄水フロー



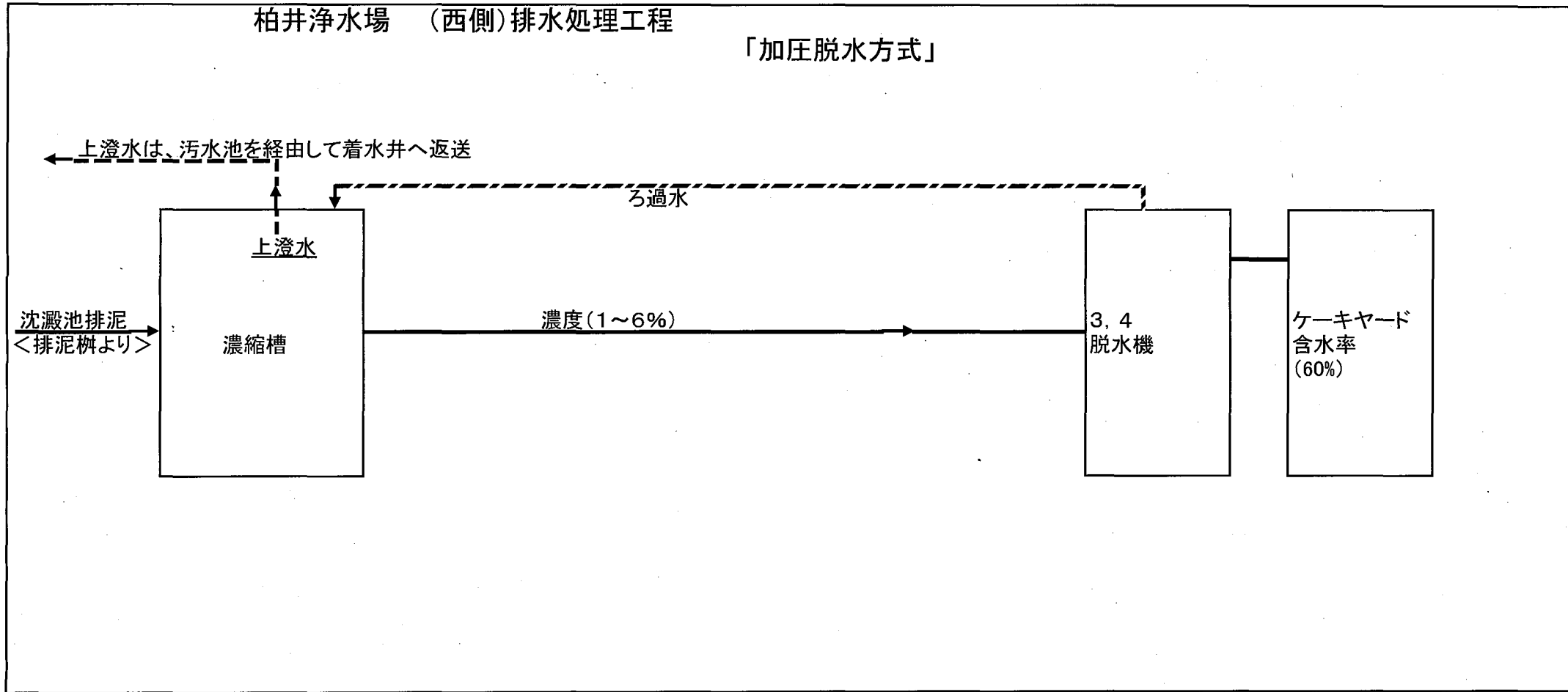
備考

1. フローシートには、製造業では生産品目ごとに次の事項を記載すること。
 - (1) 生産工程及び生産設備の名称。特定施設がある場合は、これを明示すること。
 - (2) 生産施設に番号を付け、別紙1-1の生産施設名の番号と対応すること。
 - (3) 生産施設に番号をつけ、別紙5-4の施設名の番号と対応させること。
 - (4) 原材料及び使用薬品等の名称及びこれの使用量。
 - (5) 排水、排ガス、廃棄物等の発生箇所は、それぞれ、且体名をつけて明示すること。



備考

1. フローシートには、製造業では生産品目ごとに次の事項を記載すること。
 - (1) 生産工程及び生産設備の名称。特定施設がある場合は、これを明示すること。
 - (2) 生産施設に番号を付け、別紙1-1の生産施設名の番号と対応すること。
 - (3) 生産施設に番号を付け、別紙5-4の施設名の番号と対応させること。
 - (4) 原材料及び使用薬品等の名称及びこれの使用量。
 - (5) 排水、排ガス、廃棄物等の発生箇所は、それぞれ具体名をつけて明示すること。

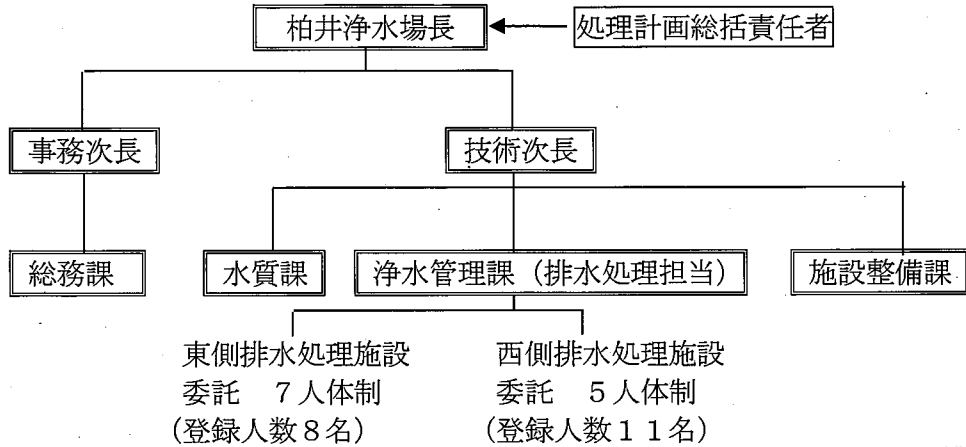


備考

1. フローシートには、製造業では生產品目ごとに次の事項を記載すること。
 - (1) 生産工程及び生産設備の名称。特定施設がある場合は、これを明示すること。
 - (2) 生産施設に番号を付け、別紙1-1の生産施設名の番号と対応すること。
 - (3) 生産施設に番号をつけ、別紙5-4の施設名の番号と対応させること。
 - (4) 原材料及び使用薬品等の名称及びこれの使用量。
 - (5) 排水、排ガス、廃棄物等の発生箇所は、それぞれ具体名をつけて明示すること。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	280,564 t	
	(これまでに実施した取組) 薬品注入の抑制及び汚泥の低含水率を実施し、減量化に努めた。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	302,704 t	
	(今後実施する予定の取組) 前年度同様、薬品注入の抑制と汚泥の低含水率を目標に減量化を図っていく。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項		
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	
	(これまでに実施した取組)	
② 計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	
	(今後実施する予定の取組)	
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項		
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	264,901 t
(これまでに実施した取組) 原水の植物プランクトンの増減により、凝集剤の使用量が大幅に左右されるが、発生土の含水率65%以下を目標に処理をして、減量化を図った。		
② 計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	285,026 t
(今後実施する予定の取組) 天候等により、原水の植物プランクトンが変化し、凝集剤の使用量が大幅に増加することが予想されるが極力発生土の含水率を低減化し、減量化を図る。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量		
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量		
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	処理委託量	15,663 t	
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量	15,663 t	
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(これまでに実施した取組) セメントの原料として、再生利用した。			

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全処理委託量	17,678 t	
	優良認定処理業者への 処理委託量		
	再生利用業者への 処理委託量	17,678 t	
	認定熱回収業者への 処理委託量		
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		
	(今後実施する予定の取組) 前年度同様にセメントの原料として、再生利用を図っていく。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。